

事業事前評価表

国際協力機構 東南アジア第一・大洋州部東南アジア第三課

1. 案件名（国名）

国名：フィリピン国

案件名：オーロラ記念病院改善計画

Project for Improvement of Aurora Memorial Hospital

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における保健セクターの現状と課題

本事業対象地域であるオーロラ州は中部ルソン地方（Region3）に属する人口 21 万人の州である。州内には 4 つの公立病院と 1 つの私立病院（二次レベル）があるが、一床あたりの人口は 2,800 人（国全体では 1,000 人）、医師一人あたりの人口は 11,800 人（同 1,100 人）と、他の地域と比べて著しく状況が悪い。本プロジェクトの対象である州都バレールにある州最大の州立病院であるオーロラ記念病院も、ベッド数 25 床、一般医 4 名で 9 万人の人口をカバーしているが、検査機材や施設の老朽化の影響もあり、専門医の確保が困難な状況にある。また、当初は二次レベルの病院として機能していたが、保健省の規定で、専門医の配置がない病院での手術が制限されたことなどから、集中治療や手術が必要な疾病に対応できず、一次レベル病院に格下げされた経緯がある。現在、手術や集中治療を必要とする場合には、隣接するヌエバエシハ州のトップレファラル（三次レベル）病院まで 4 時間かけて行かなければならないが、台風の被害を受けることが多く、災害時にはヌエバエシハまでの道が通行不能になることも頻繁にある。よって、オーロラ州における保健医療サービスの提供能力強化が喫緊の課題となっている。

(2) 当該国における保健セクターの開発政策における本事業の位置づけ

フィリピン国保健省は保健セクター改革戦略 (FOURmula One for Health 2005-2010) に基づき、「保健財政の強化」、「保健規程・品質保証の強化」、「保健サービスのアクセス改善」、「保健システムのパフォーマンス改善」等の実施により、保健システムの質、効率、効果、公平性を高める政策を進めており保健省での予算も増加傾向にあるものの依然として全てが低い状況にある。また保健サービスの地域間格差も依然として大きい。

本事業は、上記の保健セクター改革戦略の政策のなかでも、特に「保健サービスのアクセス改善」に資するものである。

(3) 保健セクターに対する我が国及び JICA の援助方針と実績

フィリピン国別援助計画において、「貧困層の自立支援と生活環境改善」を重点開発課題のひとつとしており、その方針として「基礎的社会サービスの拡充（貧困層を取り巻く生活環境の改善）」に基づき、「保健医療改善プログラム」を実施している。

(4) 他の援助機関の対応

世銀、ADB、米国等の各々保健セクターが、支援方針を策定し、情報を共有しながら、中央政府、地方自治体の支援を行っている。

3. 事業概要

(1) 事業の目的（協力プログラムにおける位置づけを含む）

オーロラ州オーロラ記念病院において、外来棟等の新設及び医療機材の整備を行うことにより、保健サービスのアクセス改善を図る。なお、本件は「保健医療プログラム」に位置づけられる。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

フィリピン国オーロラ州（人口 21 万人）

(3) 事業概要

1) 土木工事、調達機器等の内容

①病院施設：管理・救急・外来棟、手術・分娩棟、病棟 2 棟、その他付属施設からなり、総床面積 3,969.6 m²の病院施設の建設。

②医療機材：歯科用、理学療法用、X線検査室用、救急室/手術室用、産婦人科用、耳鼻咽喉科・眼科用機材等の供与。

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、施工監理等 ソフトコンポーネントなし

(4) 総事業費/概算協力額

総事業費 12.56 億円（概算協力額（日本側）：10.89 億円、フィリピン国側：1.67 億円）

(5) 事業実施スケジュール（協力期間）

2010 年 3 月～2011 年 11 月を予定（計 20 ヶ月。詳細設計、施工・調達期間を含む）

(6) 事業実施体制（実施機関/カウンターパート）

主管官庁：オーロラ州政府

実施機関：オーロラ州政府 州保健局

(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリー分類：C

② 影響と緩和・軽減策

「フィ」国の排水基準に従い浄化槽を計画し、排水処理をして生物化学的酸素要求量（BOD）を低減する。

2) 貧困削減促進

特になし

3) ジェンダー

特になし

(8) 他援助機関等との連携・役割分担

特になし

(9) その他特記事項

特になし

4. 外部条件・リスクコントロール

(1) 事業実施のための前提条件

・相手国側実施機関により敷地の整備、資機材の免税措置および付加価値税の還付が遅滞なく進められること。

2) プロジェクト全体計画達成のための外部条件

- ・ フィリピンの経済および治安が急激に悪化しない。
- ・ PIPH(州保健資計画)の策定と運用が順調に実施される。
- ・ 専門医が継続的に確保できる。

5. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

過去に実施された類似案件（ダバオメディカルセンター整備計画）と同様に、計画に当たっては、将来の不確かな医療ニーズではなく、調査時点で現実に存在するニーズと財源・人材などのリソースに基づき、根拠のある規模・機能設定を行った。

6. 評価結果

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

(1) 妥当性

日本政府は ODA 大綱の重点課題として貧困削減を掲げ、削減のためのアプローチ及び具体的な取組として、MDGs 達成のための支援を行うこととしている。また、国内で極めて低水準であるオーロラ州で本プロジェクトを実施することは、フィリピン国保健省が保健セクター改革戦略(FOURmula One for Health2005-2010)に基づき進めている「保健財政の強化」、「保健規程・品質保証の強化」、「保健サービスのアクセス改善」、「保健システムのパフォーマンス改善」等の政策と合致する。

(2) 有効性

1) 定量的効果

指標名	基準値 (2008 年)	目標値 (2015 年) 【事業完成 3 年後】
オーロラ記念病院の受入可能な延入院患者数 (人・日)	7,700	13,000
他州の病院で治療していた州住民のうち、オーロラ病院で診療可能となる診療件数 (件/年)	0	800

2) 定性的効果

- ・ 保健医療サービスの質が向上する。
- ・ 悪路を長時間かけて州外へ搬送せずに本件病院で診療を受けられるため患者の身体的・経済的な負担が軽減する。

7. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

6. (2) 1) のとおり。

(2) 今後の評価のタイミング

- ・ 事後評価 事業完成 3 年後

以上